

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年11月13日

【四半期会計期間】 第21期第2四半期(自 2020年7月1日 至 2020年9月30日)

【会社名】 パシフィックシステム株式会社

【英訳名】 PACIFIC SYSTEMS CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 渡 邊 泰 博

【本店の所在の場所】 埼玉県さいたま市桜区田島八丁目4番19号

【電話番号】 048(845)2200 (代表)

【事務連絡者氏名】 総務部長 土 谷 稔

【最寄りの連絡場所】 埼玉県さいたま市桜区田島八丁目4番19号

【電話番号】 048(845)2200 (代表)

【事務連絡者氏名】 総務部長 土 谷 稔

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第20期 第2四半期 連結累計期間	第21期 第2四半期 連結累計期間	第20期
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2020年4月1日 至 2020年9月30日	自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
売上高 (千円)	4,705,438	4,133,991	10,813,200
経常利益 (千円)	327,191	183,226	823,948
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	229,745	19,457	528,978
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	222,670	55,686	543,536
純資産額 (千円)	4,789,092	4,987,813	5,109,683
総資産額 (千円)	7,381,071	7,615,730	8,679,104
1株当たり四半期(当期)純利益 金額 (円)	155.26	13.15	357.49
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	64.9	65.5	58.9
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	580,174	764,647	781,819
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△195,204	△459,746	△119,232
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△75,439	△115,768	△303,446
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,852,196	2,090,937	1,901,805

回次	第20期 第2四半期 連結会計期間	第21期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日	自 2020年7月1日 至 2020年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	125.61	82.83

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響を受けて、極めて厳しい状況にあります。また、緊急事態宣言解除後では新しい生活様式などの感染拡大の防止策を講じつつ、段階的に社会経済の活動レベルを引き上げておりますが、先行きについては不透明な状況が続くものと予想されます。

当社グループが属する情報サービス業界におきましては、そのような環境の中でも、情報化投資として AI、IoT および新型コロナ対応のためのデジタル技術などの ICT（情報通信技術）の利活用が継続する一方で、新型コロナウイルス感染症拡大による情報化投資の抑制・延期などの影響もみられます。

このような状況のもと、当社グループは顧客・社員の安全衛生の確保を優先するため、テレワークや時差出勤、リモートによる商談などを推進し、一定の営業活動を維持してまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、機器等販売、ソフトウェア開発、システム販売、システム運用・管理等の全てのセグメントで減少となり、4,133,991千円（前年同期比12.1%減）となりました。損益につきましては売上高の減少等により、営業利益175,646千円（同46.1%減）、経常利益183,226千円（同44.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益19,457千円（同91.5%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

① 機器等販売

売上高は前年度旺盛だった機器更新需要の反動とコロナ禍における受注の減少により、815,320千円（前年同期比33.5%減）となりました。セグメント損益は売上高の減少により、20,706千円の利益（同73.6%減）となりました。

② ソフトウェア開発

売上高はコロナ禍における受注の減少や開発案件の中断がありましたが、前年度から継続していた開発案件の計上や文教案件等もあり、659,205千円（前年同期比3.5%減）となりました。セグメント損益は売上高は減少したものの生産性が向上したこと等により、116,144千円の利益（同13.5%増）となりました。

③ システム販売

売上高は前年度から継続していたインフラ案件や医療の大型案件で増加しましたが、コロナ禍において画像処理システムや生コン関連等で受注の減少や案件の中断もあり、1,076,210千円（前年同期比4.6%減）となりました。セグメント損益は売上高の減少により、87,779千円の利益（同10.2%減）となりました。

④ システム運用・管理等

売上高は子会社で前年度上期まで続いた大型のデータセンタ業務が契約満了となり、新たな顧客の獲得を目指しておりましたが、コロナ禍で獲得には至らず、1,583,255千円（前年同期比5.1%減）となりました。セグメント損益は売上高の減少により、483,827千円の利益（同13.0%減）となりました。

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて19.3%減少し、4,589,539千円となりました。これは、主に仕掛品が469,964千円、現金及び預金が189,131千円増加したものの受取手形及び売掛金が1,771,579千円減少したことにより

ます。固定資産は、前連結会計年度末に比べて1.0%増加し、3,026,190千円となりました。これは、主に投資その他の資産その他に含まれる投資有価証券が44,810千円増加したことにより

ます。この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて12.3%減少し、7,615,730千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて31.6%減少し、2,007,510千円となりました。これは、主に短期借入金が増加したものの、買掛金が554,079千円、その他に含まれる未払金が181,094千円、未払法人税等が135,723千円減少したことにより

ます。固定負債は、前連結会計年度末に比べて2.0%減少し、620,406千円となりました。これは、主にその他に含まれるリース債務が10,872千円減少したことにより

ます。この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて26.4%減少し、2,627,916千円となりました。

(純資産)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて2.4%減少し、4,987,813千円となりました。これは、主に株主配当金の支払が177,556千円あったことにより

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べて189,131千円増加し、2,090,937千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、764,647千円（前年同期は580,174千円の増加）となりました。これは、主に仕入債務の減少額497,251千円、棚卸資産の増加額455,941千円、法人税等の支払額154,899千円があったものの、売上債権の減少額1,771,579千円、減価償却費215,209千円があったことにより

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、459,746千円（前年同期は195,204千円の減少）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出348,170千円、無形固定資産の取得による支出111,250千円があったことにより

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、115,768千円（前年同期は75,439千円の減少）となりました。これは、主に短期借入金による収入が150,000千円あったものの、配当金の支払額177,556千円、リース債務の返済による支出が88,212千円があったことにより

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は11,043千円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	5,920,000
計	5,920,000

② 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年11月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,480,000	1,480,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は 100株であります。
計	1,480,000	1,480,000	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

② 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年9月30日	—	1,480	—	777,875	—	235,872

(5) 【大株主の状況】

2020年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する 所有株式数の割合(%)
太平洋セメント株式会社	東京都文京区小石川1-1-1	1,017.0	68.73
パシフィックシステム社員持株会	埼玉県さいたま市桜区田島8-4-19	144.8	9.79
AGS株式会社	埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-3-25	30.0	2.03
株式会社武蔵野銀行	埼玉県さいたま市大宮区桜木町1-10-8	30.0	2.03
第一生命保険株式会社	東京都千代田区有楽町1-13-1	20.0	1.35
増古 恒夫	埼玉県さいたま市浦和区	12.0	0.81
みずほリース株式会社	東京都港区虎ノ門1丁目2-6	10.0	0.68
小南 毅	埼玉県熊谷市	8.4	0.57
久保 永史	千葉県船橋市	7.4	0.50
小澤 文男	東京都八王子市	7.0	0.47
計	—	1,286.6	86.95

(注) 太平洋セメント株式会社は、当社の親会社であります。

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2020年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 300	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,479,400	14,794	—
単元未満株式	普通株式 300	—	—
発行済株式総数	1,480,000	—	—
総株主の議決権	—	14,794	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式65株が含まれております。

② 【自己株式等】

2020年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) パシフィックシステム(株)	埼玉県さいたま市桜区 田島八丁目4番19号	300	—	300	0.02
計	—	300	—	300	0.02

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年7月1日から2020年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年4月1日から2020年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,901,805	2,090,937
受取手形及び売掛金	2,756,343	984,764
リース投資資産	449,507	479,881
商品及び製品	66,452	60,080
仕掛品	356,809	826,774
原材料及び貯蔵品	39,951	32,300
その他	115,448	115,988
貸倒引当金	△2,643	△1,187
流動資産合計	5,683,675	4,589,539
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	776,812	752,103
土地	531,977	531,977
その他（純額）	604,136	621,825
有形固定資産合計	1,912,927	1,905,906
無形固定資産	432,353	427,735
投資その他の資産		
退職給付に係る資産	235,605	239,553
その他	422,469	460,921
貸倒引当金	△7,926	△7,926
投資その他の資産合計	650,148	692,548
固定資産合計	2,995,429	3,026,190
資産合計	8,679,104	7,615,730
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,072,370	518,290
短期借入金	-	150,000
未払費用	322,022	249,002
未払法人税等	161,864	26,140
賞与引当金	441,683	367,966
受注損失引当金	360	2,308
アフターコスト引当金	35,846	28,235
その他	902,500	665,566
流動負債合計	2,936,648	2,007,510
固定負債		
退職給付に係る負債	20,490	17,982
その他	612,282	602,423
固定負債合計	632,772	620,406
負債合計	3,569,420	2,627,916

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	777,875	777,875
資本剰余金	239,946	239,946
利益剰余金	4,013,335	3,855,236
自己株式	△737	△737
株主資本合計	5,030,419	4,872,320
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,888	136,583
退職給付に係る調整累計額	△25,625	△21,090
その他の包括利益累計額合計	79,263	115,493
純資産合計	5,109,683	4,987,813
負債純資産合計	8,679,104	7,615,730

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	4,705,438	4,133,991
売上原価	3,514,638	3,098,068
売上総利益	1,190,799	1,035,923
販売費及び一般管理費	※1 864,730	※1 860,276
営業利益	326,068	175,646
営業外収益		
受取利息	13	13
受取配当金	2,369	2,286
受取手数料	949	909
受取保険料	-	6,000
その他	1,838	1,325
営業外収益合計	5,170	10,534
営業外費用		
支払利息	1,159	1,304
売上割引	2,160	1,020
支払手数料	548	402
その他	180	228
営業外費用合計	4,048	2,955
経常利益	327,191	183,226
特別利益		
投資有価証券売却益	432	-
特別利益合計	432	-
特別損失		
固定資産除却損	53	2,380
支払補償金	-	※2 145,000
特別損失合計	53	147,380
税金等調整前四半期純利益	327,570	35,845
法人税等合計	97,825	16,388
四半期純利益	229,745	19,457
親会社株主に帰属する四半期純利益	229,745	19,457

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	229,745	19,457
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11,722	31,694
退職給付に係る調整額	4,647	4,535
その他の包括利益合計	△7,075	36,229
四半期包括利益	222,670	55,686
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	222,670	55,686
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	327,570	35,845
減価償却費	185,999	215,209
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△40,977	△73,716
受注損失引当金の増減額 (△は減少)	54,905	1,948
アフターコスト引当金の増減額 (△は減少)	466	△7,611
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	3,172	△2,507
退職給付に係る資産の増減額 (△は増加)	11,343	2,573
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△601	△1,455
受取利息及び受取配当金	△2,382	△2,299
支払利息	1,159	1,304
固定資産除却損	53	2,380
投資有価証券売却損益 (△は益)	△432	-
支払補償金	-	145,000
売上債権の増減額 (△は増加)	848,221	1,771,579
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△311,209	△455,941
リース投資資産の増減額 (△は増加)	△49,983	△30,374
その他の資産の増減額 (△は増加)	△12,747	△4,263
仕入債務の増減額 (△は減少)	22,179	△497,251
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△97,681	△72,116
その他の負債の増減額 (△は減少)	△177,929	△109,752
小計	761,125	918,550
利息及び配当金の受取額	2,382	2,299
利息の支払額	△1,159	△1,304
法人税等の支払額	△182,181	△154,899
法人税等の還付額	7	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	580,174	764,647
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△117,382	△348,170
無形固定資産の取得による支出	△78,527	△111,250
投資有価証券の売却による収入	672	-
敷金及び保証金の差入による支出	△409	△344
敷金及び保証金の回収による収入	442	18
投資活動によるキャッシュ・フロー	△195,204	△459,746
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	150,000	150,000
リース債務の返済による支出	△62,670	△88,212
配当金の支払額	△162,768	△177,556
財務活動によるキャッシュ・フロー	△75,439	△115,768
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	309,531	189,131
現金及び現金同等物の期首残高	1,542,665	1,901,805
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,852,196	※ 2,090,937

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

税金費用の計算

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

当第2四半期連結累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した新型コロナウイルス感染症による業績の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

偶発債務

当社及び得意先は、得意先が当社製品を組み込み・納入した機械に関連して、生産物賠償責任保険契約に基づいて保険金を支払ったとして、2018年8月30日付で保険会社より保険代位による求償金263,273千円の支払いを求め訴訟を提起されております。

現時点でこれらの影響額は不明であります。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
給与手当	332,314千円	317,891千円
福利厚生費	87,187千円	87,456千円
賞与引当金繰入額	102,249千円	104,548千円
退職給付費用	21,695千円	22,237千円
減価償却費	13,746千円	15,220千円

※2 支払補償金

労働災害における補償金であります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
現金及び預金	1,852,196千円	2,090,937千円
現金及び現金同等物	1,852,196千円	2,090,937千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年5月13日 取締役会	普通株式	162,768	110	2019年3月31日	2019年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年5月25日 取締役会	普通株式	177,556	120	2020年3月31日	2020年6月30日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	機器等販売	ソフトウェア 開発	システム 販売	システム運 用・管理等	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,225,545	683,075	1,127,853	1,668,962	4,705,438	—	4,705,438
セグメント間の内部売上高 又は振替高	219	2,228	30,262	812	33,522	△33,522	—
計	1,225,764	685,304	1,158,116	1,669,775	4,738,960	△33,522	4,705,438
セグメント利益	78,422	102,361	97,736	556,394	834,915	△508,846	326,068

(注) 1 セグメント利益の調整額△508,846千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	機器等販売	ソフトウェア 開発	システム 販売	システム運 用・管理等	計		
売上高							
外部顧客への売上高	815,320	659,205	1,076,210	1,583,255	4,133,991	—	4,133,991
セグメント間の内部売上高 又は振替高	292	1,102	15,439	4,902	21,735	△21,735	—
計	815,612	660,307	1,091,649	1,588,157	4,155,727	△21,735	4,133,991
セグメント利益	20,706	116,144	87,779	483,827	708,457	△532,810	175,646

(注) 1 セグメント利益の調整額△532,810千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(金融商品関係)

金融商品の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(有価証券関係)

有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額は、前連結会計年度の末日と比較して著しい変動がありません。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	155円26銭	13円15銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	229,745	19,457
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	229,745	19,457
普通株式の期中平均株式数(株)	1,479,713	1,479,635

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年11月13日

パシフィックシステム株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 金子 靖 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 谷川 陽子 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているパシフィックシステム株式会社の2020年4月1日から2021年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2020年7月1日から2020年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2020年4月1日から2020年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、パシフィックシステム株式会社及び連結子会社の2020年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。